

2018年6月25日

三菱一号館美術館2018-2019展覧会スケジュールのお知らせ



ポール・セザンヌ《ザクロと洋梨のあるショウガ壺》1893年 油彩/カンヴァス
The Phillips Collection, Washington, D.C., Gift of Gifford Phillips in memory of his father, James Laughlin Phillips, 1939

フィリップス・コレクション展

2018年10月17日(水)～2019年2月11日(月・祝)
主催：三菱一号館美術館、フィリップス・コレクション、読売新聞社、
日本テレビ放送網

米国で最も優れた私立美術館の一つとして知られるワシントンのフィリップス・コレクションは、裕福な実業家の家庭に生まれ、高い見識を持つコレクターであったダンカン・フィリップス(1886-1966)の旧私邸であった場所に位置しています。2018年には創設100周年を迎えます。1921年にはニューヨーク近代美術館よりも早く、アメリカでは最初の近代美術中心の美術館として開館しました。フィリップスの常に鋭い取捨選択によって、コレクションの中核をなす作品群はいずれも質の高いものばかりです。

本展では、この世界有数の近代美術コレクションの中から、アングル、コロ、ドラクロワ等19世紀の巨匠から、クールベ、そして近代絵画の父マネ、印象派のドガ、モネ、印象派以降の絵画を牽引したセザンヌ、ゴーガン、クレー、ピカソ、ブラックらの秀作75点を展覧します。



Dante Gabriel Rossetti, *Venus Verticordia*, 1864-68, Oil on canvas
on loan from Russell-Cotes Art Gallery & Museum, Bournemouth,
BORM 0189

ラファエル前派の軌跡 展(仮)

2019年3月14日(木)～6月9日(日)
主催：三菱一号館美術館

1848年、ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティらが結成したラファエル前派兄弟団は、英国美術の全面的な刷新をめざして、世の中にすさまじい衝撃をもたらしました。この前衛芸術家たちの作品は、観る者の心に訴えかけ、広く共感を呼びました。人々は、社会の基盤が移りゆくなかで、彼らの芸術に大きな意義を見出したのです。その精神的な指導者であるジョン・ラスキンは、あらゆる人にかかわる芸術の必要性を説く一方で、彼らとエドワード・バーン＝ジョーンズやウィリアム・モリスら、そして偉大な風景画家J. M. W. ターナーとを関連づけて考察しました。本展では、英米の美術館に所蔵される油彩画や水彩画、素描、スタンドグラス、タペストリ、家具など約150点を通じて、彼らの功績をたどり、この時代のゆたかな成果を展覧します。

マリアノ・フォルチュニ 織りなすデザイン 展(仮)

2019年7月6日(土)～10月6日(日)(予定)
主催：三菱一号館美術館、毎日新聞社

軽くてしなやかな「デルフォス」(繊細なプリーツを施した絹サテンのドレス)で一躍20世紀初頭の服飾界の寵児となったマリアノ・フォルチュニ(1871-1949)。彼の邸宅兼アトリエを美術館として公開しているフォルチュニ美術館(ヴェネツィア)の全面的な協力のもと、本展では、フォルチュニ芸術の真骨頂である絹地のドレスやコートなどの服飾作品を軸に、絵画、版画、写真、舞台関連作品、彼が蒐集した日本の染め型紙を含むデザイン関連資料等を総合的に展覧します。

スペインのグラナダで生まれ、ローマとパリで育ち、ヴェネツィアで制作して成功をおさめた彼の生い立ちから多彩な創作活動まで、近年世界的に注目されている総合芸術家・デザイナーの全貌に迫ります。



マリアノ・フォルチュニ撮影「模様をプリントした絹ベルベットの衣装を身に着けたモデル」
インクジェットプリント(オリジナル:1915年頃 オートクローム・リュミエール)
フォルチュニ美術館蔵
© Fondazione Musei Civici di Venezia - Museo Fortuny

※展覧会のタイトル・会期・内容等は2018年6月時点のものであり、
今後変更になることもあります。最新の情報は美術館サイト(<http://mimt.jp>)をご確認ください。